

「あいっえお」をまるごと楽しむ国語入門

—「ピカピカの一年生と「あいっえお」を柱に、楽しく勉強を始めるためのヒント—

東京都昭島市立共成小学校

野澤 文

一 「元気な声で」「あいっえお」

授業開始のあいさつの後「おなかに手をあて」とお腹に手を当てる子供たちに呼びかけ

る。子供たちはすぐに応じる。そのまま『あいっえお』と言ってみましょう」と誘う。まだ、書けない子がいたとしても、「あいっえお」は知っている。元気いっぱい「あいっえお」と声を出す。すかさず「むねにてをあて」胸に手を当てる呼びかける。「あいっえお」と続けると、子供たちはついてくる。その後も、かけ合いで、リズムよく楽しくこの詩（あらい たけこ作「あいっえお」）を読んでいく。読むといっても、口伝えて唱え、「あいっえお」を楽しむのだ。最後の三行「あいっえお」は／母音といって、／日本の ことばの かあさんです」は教師が読む。これを、国語の時間の最初にくり返すと、一週間後には教師の部分も唱え出す子供が出てくる。驚きを交

えてほめると、いつの間にか子供たちは終わりの三行まで暗唱してしまふ。「母音」の意味を簡単に説明して丁寧に言うように伝えると、また張り切る。

基本の形をみんなが暗唱した頃から、違ふ体の部位を加えたり、教科書の「くちのたいそう」を入れたりして楽しむ。また、元気で伸びやかな声をほめて、「その声で今日勉強する〇〇を読みましよう。」と声をかけるだけで、子供たちの学習の構えができる。

二 空に 背中に「あいっえお」

一年生は文字を書く学習にも意欲満々、既けにずいぶん書き慣れている子供もいる。正しい筆順や十字リーダーを意識した字形、とめ・はね・はらいに着目させたいが、「知ってる！」という気持ちから自己流を抜け出せない子供も多い。そんなとき、文字書き歌付きで書くとうまくいくことがある。現在品切

れになっている『ひらがなあそびの授業』（伊東信夫著 太郎次郎社）にたくさんのヒントがあるが、たとえば「そ」を書くのにソーラン節で「ヤーレン」と右上に「ソーラン」と左下に「ソーラン」と右横に「ソーランソーランソーラン」とゆっくりふくらませてしっかり止める。そしてみんな「ハイハイ」とできた字を見る。などのように進めるのである。歌は子供たちと作ってもよい。その歌に合わせて、空のノートに、練習帳に、書いていく。「お家の人の背中に書く」などと宿題を出すと「歌いながら書いてくれました」と連絡帳が届くこともある。

三 連載読み聞かせ「あいっえお」

文字を書く学習の後、私は、ごほうびのようその日に習った文字のお話を読み聞かせする。『あいっえおばけだぞ』（五味太郎著 絵本館）、『あいっえおばけです』（東君平著 フレーベル館）他、いろいろな本があるが一冊決めておくと、平仮名の学習がすべて終わったときに一冊読み終わることになる。毎時間少しづつ連載風に読み進めることで、お話を予想したり、作ったりして楽しむ姿も生まれてくる。

のさわ あや 昭島市立共成小学校主任教諭